

グループ随一の「教育病院」が刻む歴史

⑥ 湘南藤沢徳洲会病院 (神奈川県藤沢市)



色と形が異なる外来と病棟を組み合わせた建物。設計を担当した梓設計は成田空港や東邦大学医療センター大森病院などの実績で知られる

2012年10月1日に開院。32年間にわたって地域で愛された茅ヶ崎徳洲会総合病院が藤沢市辻堂で419床の急性期総合病院・湘南藤沢徳洲会病院として新たに一步を踏み出した。茅ヶ崎の跡地では2年後に132床の急性期病院を新設。

「徳洲会が箱根の関を越えて造ったのが茅ヶ崎の病院でした。最初は4人のスタッフで始まった。『教育病院』として徳洲会66病院の中でも特筆すべき歴史を有しています」(渡部和巨・院長代行)

茅ヶ崎市内での移転を模索したが、適した土地が見つからなかった。関東特殊製鋼が移転した辻

堂駅近辺の25haの跡地に手を挙げた。紆余曲折はあったが、08年1月に用地を取得。

「茅ヶ崎に病院を誘致する上で苦勞した方々もいます。32年間で評価もいただいていた。東海道線の南側にある唯一の病院が、辻堂とはいえ市外に移る。その点には私たちも断腸の思いがあります」

藤沢市のお隣、鎌倉市には湘南鎌倉総合病院がある。こちらも線路の北側で574床。現在、渡部氏は鎌倉の病院の副院長も兼務している。

「くしくもこういう形になりました。鎌倉の経験を生かして造った病院です。徳洲会としては初めて



患者図書室「ラベンダー」。入院患者は1人2冊まで1週間の貸し出しが可能



手術室。最先端医療・急性期を扱う病院にとって要ともいえる場所



母子・胎児センターと同一階にある小児科病棟キッズスペース。母子・胎児センターと小児科を同じ階に集約



屋上ヘリポート。病院は海に反対する形で建っており、遠く江ノ島を望む



1階エントランス付近。カフェとコンビニエンスストアが営業中



職員向け保育施設「かもめえん」。病院に合わせて365日24時間体制で子供を預かる

梓設計に依頼した案件でもあります」

毎週行った会議は70回以上にも及ぶ。それでも施主としての意向を完全に反映させるのは難しい。

「ものをつくっていくのは大変なこと。勉強になりました。間に東日本大震災が発生したので、職人さん不足や計画停電の影響を受けた。当初は工期は2カ月伸びて、11月1日開院の予定でした」

ここで徳田虎雄理事長の「待った」が掛かる。

「11月に開けば、2カ月ですぐお正月がやってくる。患者さんにとってあまりに不利益だろう」

窮余の策として9月30日の引き渡しで10月1日開

院という緊密なスケジュールを組んだ。現実には9月中旬から鍵を預かり、少しずつ準備を進めた。

「216人の引っ越しも6時間ほどで終わられました。全国から救急車を13台集め、9往復。台風直撃の予報もあったので、緊張しましたが」

一般向け開院式はあいにくの雨。それでも1万2224人が内覧された。雨で諦めた人たちも公開講座の機会に病院見学に訪れている。その数、200人以上。

JR辻堂駅前、湘南シークロスの核。神奈川県での地域医療に貢献しつつ、新たな歴史を刻んでいく。